

# 目 次

はしがき v

第1章 ことばとは何か .....	1
1 ことばの実体を探る	2
2 ことばに関わる身体器官	3
3 ことばの習得	7
4 言語に難易や優劣はあるか	9
5 言語の恣意性	14
6 記号体系としての言語	16
第2章 言語の構成と言語行動 .....	21
1 研究材料の特異性	22
2 観察者としての態度	23
3 ことばの物理的実体	24
4 音声の中にすべての手がかりがあるか	26
5 ことばの構成単位	28
6 語の配列に関する決まり	33
7 結合の緊張関係	36
8 規則の生産性	38
第3章 言語学・戦後の歩み .....	41
1 ブルームフィールド	42
2 アメリカ構造主義言語学の物理主義	49
3 科学としての言語学	56

4	言語的普遍性	63
5	子供の言語習得	70
6	動物行動学	74
7	一般言語理論と個別文法	77
8	変形とは何か	82
第4章	変形文法理論とレベル	87
1	チョムスキーの登場	88
2	言語構造の二重性	90
3	分析のレベル	93
4	「変形」という新たなレベル	94
第5章	言語における句構造と変形構造	99
1	序	100
2	外国語との出会い	100
3	未知言語についての予測	102
4	単語の結合様式	104
5	句構造	108
6	変形構造	113
7	句構造と変形構造	115
8	言語行動とのかかわり	118
第6章	生成文法のその後と認知文法	123
1	個別文法から普遍文法へ	124
2	認知文法について	128
3	生成文法のその後と変形操作について	136

第7章 新言語学と英語教育とのかかわり .....	143
1 何をどのように問うか	144
2 伝統文法に対する問い	146
3 新言語学ゆえの期待	147
4 学校文法との比較	149
5 英語教育に必要な条件	152
6 どういう面で役立てるか	154
第8章 英語文型論 .....	157
1 いわゆる5文型の再評価	158
2 文型とは何か	159
3 変形文法におけるパタンの概念	163
4 文型をどこに求めるか	166
5 ありうべき修正	170
6 結語	175
第9章 英語の冠詞再考 — 認知文法の立場から — .....	179
1 定冠詞について	180
2 可算名詞, 不可算名詞について	187
3 可算名詞の不可算名詞化について	192
4 不可算名詞の可算名詞化について	194
5 可算・不可算両様名詞について	196
6 結語	199
参考文献 .....	203
索引 .....	207